

月刊島民

橋を渡る人の「街事情」マガジン

中之島

Vol.63 2013 10/1

●iPadサイズ(と、ほぼ同じ)



ナカノシマ大学

「ダイビル本館
建設秘話ツアー」

申し込み受付中!

オダサク
散策

島民だつた

『夫婦善哉』『わが町』など、大正と昭和初期の大阪を描き続けた作家、織田作之助。生誕100年を迎える今年、新作のドラマ放映に企画展と話題も目白押し。そんなオダサクイヤーだからこそ、ゆかりある中之島でも痕跡を求めて歩いてみたい。

取材文／江口由夏



提灯をつけたボートが
生物のように川の上を
往ったり来たり(中略)
浪花橋の上を電車が通ると、



中之島公園

●「アド・パルーン」昭和21年(1946)

大阪駅へ着いたのは夜でした。(中略)
かえってサバサバした気持で
大阪駅から中之島公園まで
歩きました。

主人公の十吉は、恋をした文子が東京に去ったと知って身一つで後を追うも、冷たく追い返されてしまう。渡された大阪への旅賃も底をつき、いっそ死んでしまおうと、十吉は中之島公園へ向かう。川岸で煙草を吸い始めた彼が見たのは、土佐堀川越しに広がる、北浜の夜景だった。



中之島は作之助の
原点でした。

案内人／高橋俊郎さん
(大阪市立中央図書館副館長)

大のオダサク好きと聞いて道案内をお願いしたのは、大阪市立中央図書館の副館長・高橋俊郎さん。高橋さんは、世代を超えたオダサクファンが集まる「オダサク倶楽部」副代表という顔も持つ。オダサクが残した足跡を求めて西へ東へ、フットワークも軽い。

代表作『夫婦善哉』にもあるように、ミナミや上町台地が代表的な作品舞台と捉えられがちだが、中之島も多く登場すると教えてくれた高橋さん。実は、作之助は島民だったことがあり、並行して行っていた執筆活動にも影響しているのだそう。「玉江橋北詰にあった日本工業新聞社(産経新聞社の前身)に、昭和14年(1939)から勤めていたんです。駆け出しの頃は、周辺の様子を取り入れて構想を練ることが多

その灯が川に落ちて、
波の上にさかきになった
電車の形を描き出します。

昭和43年まで、中之島公園の川岸には貸しボートが停泊し、夜間は舳先に明かりを灯して川遊びに興じるのが日常だった。ここで恩人となる秋山と出合い、十吉は更生する。同じく、中之島を走る路面電車もおなじみの光景だった。廃止される昭和43年（1968）まで、市電は難波橋を通り抜けて天神橋を目指す。

●『夜光虫』昭和21年（1946）
それには鉛筆の走り書きで
「今夜十時中之島公園、
図書館の前で待つ」

主人公・小沢が盗みを働いたある少女に關わってしまったことから、少女を追うスリグループと、そのグループ同士の抗争に巻き込まれていく物語。中之島公園での緊迫した果たし合いのシーンの後、梅田新道のカフェや曾根崎警察署と考えられる、S警察署も登場。



オ



●『土曜夫人』昭和21年（1946）
中之島公園を抜けて、
淀屋橋の北詰（中略）
大江橋まで来ると、
銀造はいきなり左へ折れた。
そして、川沿いの柳の
並木にかくれながら、
渡辺橋の方へ走った。

京都から中之島へ逃げたスリと、尾行する少女、さらに大阪拘留所から集団脱走した囚人が交錯する場面。大混乱の中之島を描かれた方へ駆け抜けていく囚人の様子が描かれている。連載中、舞台が東京に移り、取材のために上京した先で亡くなった作の助。惜しくも未完の長編小説。



サ

かった。土地勘があった中之島周辺は書きやすかったと思います。

もともと、大阪府立中之島図書館へ自主勉強の目的で通っていたため、中之島には縁があった。明治37年（1904）に「大阪図書館」として創設された同館には、学生だった作之助だけでなく、多くの文豪が知識欲を満たすために来ていたと高橋さんは話す。大阪随一の図書館がある場所として、中之島には知性が集った。作之助は新たに友人となった人々に構想のヒントを得て、筆一本で身を立てようとする。生涯の付き合いとなる藤澤恒夫らを始め、作之助には同好の士がたくさんできた。昼下がりににはキタからミナミを冷やかに練り歩き、夜には執筆に没頭した。

しかし、充実した大阪生活を送っていたからこそ、戦火で焼けてしまった大阪に、作之助はがっかりした。中之島界隈や御堂筋にわずかに残った面影を作品に登場させることで、ありし日の大阪を惜愛したと言われている。

オダサク倶楽部とは？

2003年に発足したオダサクに魅せられた人なら誰でも会員になれる同好会。現在は老若男女30名ほどが集まり、まち歩きや意見交換などを熱心に行なう。メディアからオダサクの資料情報提供を求められることもしばしば。その活動の様子はFacebookや随時確認可能なインスタグラム、https://www.facebook.com/OdaSakunosuke





玉江橋

B

◎「馬地獄」昭和16年(1941)

東より順に大江橋、渡辺橋、田箕橋、そして玉江橋まで来ると、橋の感じがにわかに見すばらしい。

動物にまつわる短編集『動物集』の中より、作之助の観察眼が冴えた「馬地獄」の冒頭。執筆当時は中之島まで市電を利用し、毎日玉江橋を渡って現在の福島2丁目にあった新聞社に通っていた作之助自身の感想なのかもしれない。すぐあとには、作之助がたむろしていた喫茶店の様子、川の水は濁り、倉庫が多くて荷馬車がよく通るといった描写が続く。

大阪市 中央公会堂

E

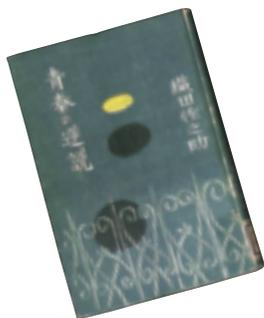
◎「青春の逆説」昭和16年(1941)

ある日、(中略)広告を見て、中之島の中央公会堂へ出掛けたところ、調査係とは体の良い口調で、実は生命保険の勧誘員のことだった。

ODA
SAKU



なかなか就職できないことに焦りを覚えている主人公・豹一。求人広告を見て中央公会堂で行われる面接へ向かうが、あえなく不採用。が、帰宅すると小さな新聞社から採用通知が届いていた。作之助自身が就職に苦労した過去や、新聞社に勤めた経験を活かした作品だが、豹一の行動が反社会的であるとして発禁処分を受けた。



梅田新道 北新地

F

G

◎「夫婦善哉」昭和15年(1940)

ある日、梅田新道にある柳吉の店の前を通り掛ると、厚子を着た柳吉が、丁稚相手に地方送りの荷造りを監督していた。

この辺は「夫婦善哉」の柳吉と蝶子、それぞれの拠点。維康柳吉の老舗化粧品問屋は梅田新道にあり、蝶子は北新地の売れっ娘だった。二人がキタで落ち合い、ミナミまでそれぞれ歩かせることに意味があると高橋さんは指摘。このルートは作之助自身がミナミまで通った道筋でもあった。後に二人の駆け落ちの待ち合わせ場所として、大阪駅も登場する。

五代友厚像 西朝陽館跡

D

C

◎「五代友厚」昭和17年(1942)

戦時中の創作活動に作之助は苦しめられた。発禁処分を受けてしまう作品も多く、ならば伝記物を書いてみようとする風潮に合わせ、新境地を開拓。そうして完成したのは「五代友厚」。大阪株式取引所(現・大阪証券取引所)や大阪商法会議所(現・大阪商工会議所)を創設した大阪の偉人にも関わらず、それまで伝記がつけられていなかったことに呆れ、自ら筆をとったものだった。

高橋さんが推理する 島民だった頃の オダサクのとある一日

(午前)

①野田村文六(現・堺市東区文六)の自宅から、堂島浜の日本工業新聞社へ出勤。「新聞記者なので、デスクに張り付いていたわけではなく、出勤するとすぐに外に出てしまいました。文才は飛び抜けていたので、凄腕の記者として名を馳せたいのです」
②東区横堀(現・中央区道修町)にあった輝文館(現・漫画雑誌「大阪パック」編集部)に顔を出しに行く。編集長の秋田實や、作家の藤澤桓夫らと交友を深める。「詩人の小野十三郎や、『夫婦善哉』の表紙絵を描いた田村孝之介も集まってきました。後には、作之助が編集長を務めた同人誌「大阪文学」の拠点も輝文館だったので、打ち合わせと称してほぼ毎日やって来たようす」

川口 H

●【俗臭】昭和14年(1939)

天王寺公園のベンチで、
太左衛門橋で会った花子のことを
悲しく想い出しながら二夜を明し、
夜が明けると、
川口の沖仲仕に雇われた。



天王寺公園で野宿した主人公の権右衛門は、一家離散し、行くあてもなく無一文。運良く雇われ、川口で港に停泊する船舶の荷物積み下ろしの仕事を始める。故郷の和歌山に思いを馳せ、海を眺める日々。骨身惜しまず働く権右衛門は主人に目をかけてもらうが、商売を始めてみようかと独り立ちを決意する。同年の芥川賞候補になった作品。

京阪デパート

●【六白金星】昭和21年(1946)

無駄な金は一銭も使ふまいと決めてゐたが、
ただ小宮町へ行つた帰りには
いつも天満の京阪マーケットで
オランダといふ駄菓子を一袋買つてゐた。

「他の場所で買うより安い」目的で通つた「京阪マーケット」で、主人公の権雄は売り子の雪絵と出会い、恋人同士になる。当時の京阪電車は天満橋〜三条間の運行で、天満橋は大阪側のターミナルとしてにぎわつた。現在の百貨店のような規模だった京阪デパートは、その品揃えの豊富さから、駅を利用する勤め人の支持を得ていた。それをモデルにしたと思われる。



【午後】

③ 上方漫才作家でもある秋田が、心齋橋の吉本興業に出動。藤澤や作之助らも心齋橋へ向かう。

④ 秋田にお供するように、ぞろぞろ連れ立って西横堀川沿いを歩いていきました。中之島から心齋橋、道頓堀までは、作之助の活動範囲だったんです」

⑤ 作之助、一行を抜けてガスピルへ。学生会倶楽部に参加し、将棋を指す。

⑥ 「ガスピル食堂では、将棋会がたびたび開催されていました。作之助の将棋好きは、『六白金星』のラストにも反映されていますね」

⑦ 作之助、一行に再合流。心齋橋や道頓堀の風俗を楽しむ。

『夫婦善哉』で印象的だった食べ歩きは、実際に作之助が味わつたものばかりでしょう。逆にあまり登場しない地域は、日常的に関わりがなかったエリア。作之助自身もその殻は破りたかつたようで、戦後は東京を舞台にしたり、東京弁で書いてみたりと試行錯誤しています」

誘われて、戎橋の丸万でスキ焼をした。

蝶子の食べた「魚すき」。

『夫婦善哉』の作中、蝶子は元同僚の金八と再会し、戎橋にあった料理屋「丸万」に「魚すき」を食べに行く。切り詰めている蝶子はお代が気になってしまうが、出世した金八の前で口には出せない。どて焼きやおでんなど、庶民的な料理が多く登場する『夫婦善哉』の中では、珍しく少し高級な料理だ。「でも、敷居が高い食べ物ではなく、むしろ家族団欒によく使われるような、訪れやすい店だったようです。劇場が近くにあったことも手伝って、休日は家族連れでにぎわっていました」と八代目店主の後藤隆平さんが、昭和初め頃の様子を教えてくださいました。作之助はもちろん、谷崎潤一郎など著名人も多く訪れていたという。



鰯や鯛を中心に、具だくさんの魚介を山椒が効いた秘伝のタレに漬け込み、ネギや豆腐と一緒に鍋で炊く。魚を使ったすき焼きの珍しさが受け、元治元年(1864)の創業以来、戎橋の「丸万」は大繁盛していた。しかし、空襲によって甚大な被害を受けてしまったことで、一度は店を閉めざるを得なくなる。

戦後、急きょ饅谷に場所を移した後、2007年の再オープンに地を選んだのは北浜。店構えも創業時の面影に似せ、奇跡的に戦火をくぐり抜けた器や鉄鍋も現役に活躍している。先頃、『夫婦善哉』の新作ドラマ放映に合わせ、戦前と変わらぬデザインの鍋と器を撮影資料として提供した。また、瀟洒な洋館だった戎橋の店舗もセットで再現。「大阪名物としてもはやされた頃から、味だけは変わっていません」と、後藤さんは胸を張った。



丸万本家

看板商品の魚すきのコースは5,250円～。中の具は季節やコースによって変動するので、一度問い合わせを。また、10月末までは「夫婦セット」6,000円(要予約)が登場。ハモと穴子を使った一品を夫婦に見立てた二皿に盛り、魚すきと一緒にいただけるオダサクイヤー特別メニューだ。☎06-6201-4950 5:30PM～9:00PM 日・祝休

知られざる島民のお宝

織田文庫

大阪府立中之島図書館には、オダサクにまつわる資料が眠っている。草稿から日記、書簡に家計簿まで、その数およそ1500点。貴重な中身をのぞけば、彼の生きた日々がもつと身近に感じられる。その名も「織田文庫」をよりすぐって誌上公開しよう。

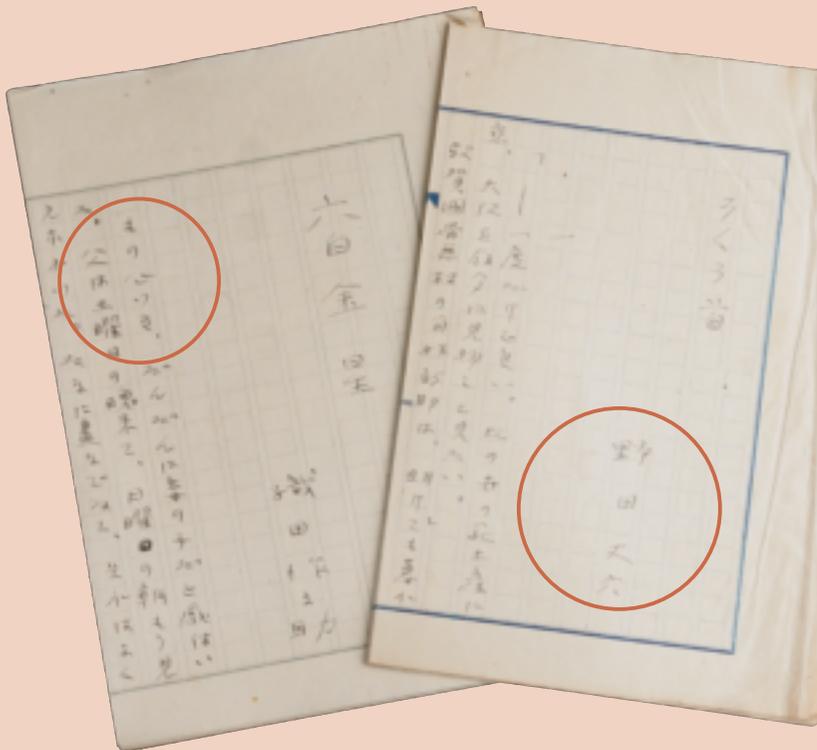
取材文／江口由夏

草稿



『夫婦善哉』

132枚にも渡る草稿は、作之助の出世作「夫婦善哉」]。昭和15年4月に発行された同人誌「海風」に初めて発表された後、改造社の第一回文芸推薦賞作品として、同年7月発行の『文芸』に掲載されたことで広く知られることになった。残された草稿は色やサイズも違う原稿用紙5種類にわたり、筆跡も微妙に異なっていて、作之助の推敲した跡が見て取れる。昨年、鹿児島にある改造社創業者・山本実彦宅から「続夫婦善哉」の原稿が発見され、一躍話題に。もともと中之島図書館の織田文庫にも「続夫婦善哉」と題された原稿用紙1枚のみが残されていたことから、「どこかに続きがあるのでは」とオダサク倶楽部を始めとするファンをやきもきさせていた。



『六白金星』と『ろくろ首』

対照的な兄弟の運命を描いた『六白金星』(写真左)の草稿は29枚。戦時中は検閲も厳しくなり、多くの作家の原稿に削除勧告が出される中、戦中の昭和15年に完成した作之助の作品も例外ではなかった。結局、書き出しや細かいエピソードを変更した原稿を昭和21年に発表した。作之助はその後書きで、かつて同じような材料で書いたが世に出すことはなかったと残念そうに語っている。

『ろくろ首』(写真右)は作者が「野田丈六」となっているが、これは作之助自身が南河内郡野田村丈六に住んでいたことに由来したペンネーム。ろくろ首は作之助の作品にたびたび現れるモチーフで、見世物小屋を連想させることから検閲に引っかかってしまう恐れがあるため、本名を隠したと考えられている。戦後、『見世物』のタイトルで発表された。

ODA
SAKU



執筆資料

趣味が詰まったオダサクの本棚。

文楽や浄瑠璃といった芸能を好んだ作之助。寄贈された資料の中には、作品に取り入れられた趣味書もたくさんあった。たとえば『絵本太功記 尼ヶ崎の段』は、十三段あるうちの十段目ということから「太十」と親しまれ、『夫婦善哉』のラストで柳吉が披露。高価な資料は天牛書店を始めとする古書店で購入することも。熱心な書き込みや、裏表紙折り返しなどに購入店や日付を記入する几帳面さを見せる。他にも、先輩作家の藤澤桓夫に影響された将棋や俳句にまつわる蔵書が集う。



織田文庫のリレキ。

大阪府立中之島図書館
大阪資料・古典籍課
小笠原弘之さん

中之島図書館には織田作之助旧蔵の資料約1500点をまとめた「織田文庫」があります。この貴重な資料群は昭和52年(1977)、作之助の実姉の竹中タツさんより寄贈いただきました。同年11月9日付で当館に受入され、11月17日には当時の黒田了一大阪府知事より感謝状が謹呈されました。

この「織田文庫」には、代表作『夫婦善哉』や『六白金星』『わが町』などの草稿(※完成原稿になる前の、推敲しながら書かれた原稿)や、旧蔵の図書や雑誌、そして創作の主題やその一部分、あるいは心にとまっただろう言葉などさまざまな事柄を書いた「創作ノート」など、その創作過程を研究するうえで重要な資料が収録されています。そんな作家としての活動を知る資料以外にも、昭和11年10月の日記や、妻・一枝がつけた昭和16年と18年の家計簿、友人・知人からの手紙など、人間・織田作之助を感じられる資料もたくさん残されています。

ところで、作之助はそのエッセイ『大阪・大阪』(『定本織田作之助全集 第八巻』所収)のなかで、中之島図書館の思い出を語っています。「中学校へ

学生時代を物語る勉学の跡。

昭和5年(1930)に発行された英語の教科書。よく遊んだ新聞記者時代からは考えられないほど、学生時代は勉強熱心で几帳面だった様子が教科書の書き込みから判明。意味がわからない単語は逐一記し、読了した日付やサインも残していく。自身のエッセイにも、地下鉄の工事がうるさくて中之島図書館での受験勉強に集中できない、と書かれていた。と言いつつも、全期を通して優等生だったわけではなく、1学期のみ全力投球するタイプの学生だったらしい。

教科書



ODA
SAKU



日記・創作ノート・書簡

三度の飯より、書き物好き?!

筆まめだった作之助は、妻のことや、東京と大阪を行き来した忙しい日々を日記に残したりもしている。また、思い浮かんだフレーズや主題も薄い小型ノートにメモ。短い創作活動中に、そういったメモが活かされたのかどうか。筆まめな性分は書簡のやり取りでも顕著で、先輩作家である宇野浩二の間では、30通以上の書簡が残されている。中身は体調の善し悪しや、新しい作品の感想、寄稿の御礼など。また、「東京における作之助の評判が良い」ことに触れた、実姉に宛てた近況報告の書簡も。

家計簿

オダサクを支えた妻の記録。

昭和16年と昭和18年の織田家を知ることができる。妻の一枝が記入し続けた家計簿。年を経るごとに持病の結核が悪化していく作之助だったが、執筆活動を休止することはなかった。一枝はそんな夫のためにバランスの良い食事を心がけ、肉や魚、野菜など幅広い食材を購入している。他のページには原稿料や、作之助の趣味である競馬やタバコにつき込んだ金銭も余すことなく記されている。決して裕福ではない中で、妻の献身があったからこそ、作之助の名作が生まれているのだ。

● 歴博に「織田文庫」が登場!

大阪歴史博物館では、10月18日(金)まで特別企画展「生誕100年記念 織田作之助と大阪」が開催中。中之島図書館「織田文庫」からも数多くの資料が展示されるだけでなく、全国各地からオダサク資料が集められている。「織田文庫」に収録されているものとは異なる、ごく初期のものと思われる『夫婦善哉』の草稿や日記などのほか、写真、衣服なども展示。また、会期中はさまざまなイベントも実施されている。まさに「織田作之助100年」にふさわしい今限りの展示だ。どうぞお見逃しなく!

こうした縁もあつて資料をご寄贈いただくことになり、昭和54年1月に「織田文庫」が誕生します。以来、作之助の研究者・愛好家はもとより、大変多くの方にご利用いただいています。特に、今年作之助が生誕100年を迎えることもあり、「織田文庫」資料を閲覧し、大阪が生んだ作家・織田作之助とその文学を研究される方はますます増えています。

「織田文庫目録」Web版

http://www.library.pref.osaka.jp/nakato/osaka/oda-huruko/oda_top.html

〈月刊島民 短期集中連載〉
京阪電車中之島線 開業5周年企画

中之島の 5年を ふり返る。

取材・文／松本 創 大迫 力(本誌)

働く街から、 住み、集う街へ。

京阪電車中之島線が開業したのは2008年10月のこと。それ以降の大きな変化は、中之島が「住む街」としても知られるようになった点だろう。2本の川の両岸を含め、タワーマンションが多く建ち、たくさんの方が移り住むようになってきた。鉄道が開業した利便性に加え、中之島公園や護岸・船着場などの整備、新しいビルの開業と、都市景観が生まれ変わったことによって、場所としての魅力が高まり、人が集まる環境が整いつつある。中之島線開業からいよいよ5周年を迎えるにあたり、これまで『月刊島民』にご登場いただいた人の証言からこの街がどのように変わっていったのか、ふり返ってみよう。

盛りだくさん! 中之島線開業5周年記念イベント

10/1(火)~11/4(月・祝) 記念パネル展

景観にとけ込むよう、素材・デザインにこだわった駅や開業後の街の様子等を写真で紹介します。
日時／10月1日(火)~11月4日(月・祝) 場所／中之島駅改札外コンコース・インフォメーションギャラリー

10/6(日) アートエリアB1開設5周年記念 Touch The Orchestra in 京阪電車 ~クラシックを体感しよう~

【第1部】「貸切電車で楽器に触ってみよう」

中之島駅留め置き車両内で日本センチュリー交響楽団の指導を受けながら楽器に触って演奏を体験します(ヴァイオリン、チェロ、コントラバス、オーボエ、クラリネット、ホルン、チューバ、打楽器)。日時／10月6日(日)1:10PM~2:00PM 参加費／1,000円 定員／120名 ※事前申し込み制

【第2部】「プロの演奏を間近で聴ける! メガミュージックカフェ」

プロの演奏技術や生の音を、通常では体験できない距離で見て、聴いていただくミニコンサートです。今までにない楽しみ方をしてみてください。

日時／10月6日(日)2:45PM~3:45PM 参加費／無料 定員／150名 ※申し込み不要

◎第1部の申し込み方法など詳しくは京阪電車のホームページを参照。

http://www.keihan.co.jp/traffic/specialtrain-goods/event_5th-artareab1/

10/19(土) 京阪電車オリジナルグッズ販売会&きかんしゃトーマス撮影会

開業記念日の中之島駅では、中之島線開業5周年を記念した京阪電車オリジナルグッズ販売会やきかんしゃトーマスの写真撮影会を実施します。

日時／10月19日(土)10:00AM~3:00PM 場所／中之島駅改札外コンコース

5年間で世帯数は倍増。

「大阪市北区中之島」の町名は1丁目から6丁目まであり、昨年9月末の住民登録によると、347世帯553人が暮らしています——2008年8月発行の月刊島民創刊号はそう報じている。それが今年3月現在では682世帯1163人。5年半で2倍になった。近年、人口増加傾向にある北区の中で見ればそれほど目立ってはいないが、そもそも住む街ではなかったところに新しい「住民」が増えてきたのは、大きな変化と言えるだろう。

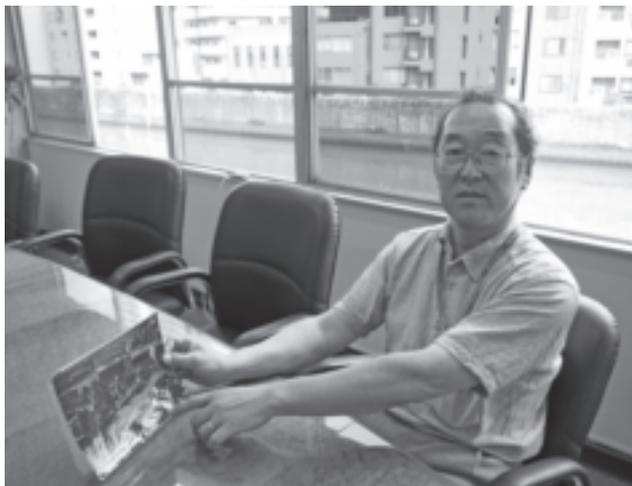
中之島で半世紀近く不動産業を営み、生粋の島民として地元町会の役



島民の声.1

街なか「シマ暮らし」の楽しみ。

桐生幸之介（きりう不動産信託社長）



員も務める桐生幸之介さんは、その要因をこう解説する。

「京阪中之島線の開業に前後して建設された『グランスイート中之島』（141戸）と『N4・タワー』（343戸）という2棟のタワーマンションですね。それ以前も小規模なマンションやワンルームはちょこちょこあったんですが、地価の下落もあって、大企業が社員クラブなどに使っていた広い土地を手放し始めた。そこへ、これまでになかった規模のマンション計画が浮上したというわ

けです。それをもたらしたのはもちろん京阪電車の新線。中之島対岸の福島や江戸堀にタワーマンションが増えてきたのも、広い意味では新線効果と言えるでしょう」

「子育て世代」の新住民。

重要なのは、ファミリー向け住宅ができたこと。つまり、「寝に帰るだけ」でなく、ここで日々の生活を送り、子供を育てる世帯が入居してきたことだという。「僕が子供だった昭和30年代なんか、緑のない灰色

の風景で、夕方5時以降はネコ一匹歩かないような寂しさだった」と桐生さん。「生活する人が増えれば、自然とにぎわいができ、街が明るく、治安も良くなる。新しく移ってきた人に聞くと、川と緑があり、視界が広々と開けた環境に惹かれたという声が多い。それから、中之島という地名が持つグレード感。住む街として憧れの対象になったのは、地元の人間としてはうれしいことです」。

町会も新しい住民を歓迎している。毎年、大阪市立科学館前の広場で開く観月会やお花見、夏休みのラジオ体操。その輪の中にマンション住民の姿も交じり始めた。昨年末には、町会の高齢化もあって中断していたもちつき大会を3年ぶりに復活。「子供だけで30〜40人も来ましてね。すぐくにぎやかでした」と桐生さんは顔をほころばせる。

「日々の買い物にはスーパーやコンビニもできてきましたし、最近はお宅配も充実している。橋を一本渡れば、飲食店が安くて豊富な福島区や西区もすぐ。まあ私ら古い住民は、中央卸売市場に出かけて食材を買ったりするんですけど、そういう中之島ならではの暮らし方を、これからもっと新しい方々に伝えていきたいし、楽しんでくれたらと思いますね」

水辺の良さを地道に伝える。

中之島が2本の川に挟まれたシマであるという、考えてみれば当たり前の事実を、どれほどの人が意識していただろう。都心には珍しい恵まれた環境に多くの人が気づき、目が向いたことが、この5年のいちばん大きな変化だったと末村巧さんは言う。大阪の人びとが日常的に川を使い、水辺を楽しむことを目指して2003年に仲間たちとNPO「水辺のまち再生プロジェクト」を立ち上げ、さまざまなイベントや提言を続けてきた水辺の仕掛け人である。

「中之島東端の天満橋あたりと渡辺橋以西のエリアがひとつながりだ」という感覚は、一般の人には薄かったでしょうね。僕らは、たとえば舟運まわりの時に天満橋から大阪ドームまで水上タクシーを走らせたりして、川でつながっていることを実感してもらおうとしてたんですが、京阪電車の中之島線は東西に軸を通し、それを目に見える形にした。それによって、この下を電車が走っている、地続きなんだという意識が生まれてきたのは、街にとって大きいと思うんですよ」

その水上タクシーをはじめ、台船を使った水上カフェ、川の見える物



島民の声.2

川と水辺を使おう。 もっと自由に。

末村 巧 (水辺のまち再生プロジェクト)

末村さんたちのNPOは発足から数年間、「きっと水辺が好きになる」とキャッチフレーズを掲げていた。川のある風景をまず見てもらおう、一度足を運び、その豊かさに気づいてほしいという意図を込めた。それを2年ほど前、「それぞれの水辺」という新しいキャッチに変えた。「気づく」段階から「自由に使う」段階へ入ったと感じたからだ。「個人的には、誰か芝居とかやってくれたらな、と。僕の事務所の窓の外には、円形劇場風の空間がありますし」という末村さん。今年の春からは月に1回、夜の川べりにテーブルを並べ、「水辺ダイナー」と称してNPOメンバーたちと作戦会議を開いている。

水辺を「使う」段階へ。

件を専門に紹介する水辺不動産、水辺のランチャツアー。楽しくも地道な仕掛けを続ける末村さんたちに追いついたのが、中之島線開通に伴う川べりの遊歩道や公園の整備であり、「川の駅はちけんや」の開業であり、さらには、2009年から始まった「水都大阪フェス」だった。毎年秋に数々の関連イベントが開かれ、川を臨む店にテラス席を設ける「北浜テラス」は当初、期間限定の社会実験だったが、今やすっかり定着した。

「行政頼みの大がかりなものだけでなく、中之島公園での朝ヨガとか、パドルボートの水上散歩とか、自由な発想で川や水辺を使う人も出てきています。定員10人程度の小さな観光船が増え、シティクルーズ協議会が発足したのも明るい動き。そういう、水辺のプレーヤーを、これからどんどん増やしたい。川や水辺というのは、誰でも使える公共空間なんですから」



二つのビルに見る変化。

大阪全体が新しい目玉施設のオープンラッシュにある中、中之島においても大きな動きがあった。昨年11月に開業した中之島フェスティバルタワーと、今年7月に再オープンを果たしたダイビル本館である。その特徴について建築家の高岡伸一さんに聞いた。

まずフェスティバルタワーについては、**「回遊性」**がキーワードになるようだ。

「従来は外から人を呼ぶ仕掛けはホールだけでしたが、普段使いできる飲食店や物販を入れることで、館内での滞留時間を増やそうという意図が見えます。また平面的な回遊性だけではなく、最上階や中層部にもお店やパブリックスペースを持つことで、立体的な回遊性も生み出して



島民の声.3

「中之島建築」の変化とこれから。

高岡伸一(建築家)

いる。日本の超高層オフィスビルの一つのトレンドです」

一方、ダイビル本館に関しては、やはり外壁の保存に着目する。

「保存してほしいという周囲の声だけでなく、創業の地である中之島の大きさや、歴史を継承することが

会社にとっても重要な気がついたのでしょう。外壁のレンガを外してもう一度付け直すという気が遠くないような作業を採用したところに、とても強い気概を感じます」



多様性を持った建築の登場。

本誌ではどちらも詳細をお届けしたが、その取材の中で強く感じたのは、働く人など日常的に中之島に通う人だけでなく、新しい人を呼び込もうとする明確な意図である。単一機能のオフィスビルにはない多様性・多面性を持った建築は、これまでの中之島にはあまり見られなかった。「中央公会堂や中之島図書館は別として、最近までの中之島、特に西側には、**「外の顔」**というものがなかった。歩道からは川も見えず、歩いている時に何か印象に残るシーンがあるわけでもなかった。けれど、フェスティバルタワーの地上部分にあ

る大きな回廊やダイビル本館前のテラスを見ると、歩く人の目に映る景観を意識した街のつくり方を目指し、そこに建築がどう関わっていくのかを考えて設計していると言います」

大阪市立近代美術館(仮称)をはじめ、今後も中之島の西部には大きな開発の動きがあるだろう。そ

の中で、何を建てるかに限らず、外部のオープンスペースをどう結んでいくのかも大切だと高岡さんは指摘する。民間企業だけでなく、大阪府・市が進める橋梁のライトアップや遊歩道の整備なども含め、歩いて楽しい都市デザインが求められているのだ。

中之島の将来の景観を考える中で、高岡さんは大事な指摘を付け加えた。「東京のような常に最新であることがステータスである都市のあり方は、中之島にはふさわしくない。良きしる悪しきにしる、中之島の持つ古い部分とどう折り合いを付け、新しいものを挿入していくのか。そのことも考えていくべきでしょう」。

うまさぎっしり新潟



関西人のための

「新潟のええとこ・うまいもんゼミナール」 を5カ月連続で開催します。

第1回「新潟の米」炊きたて白飯の卵かけご飯こそ、新潟の至宝！ 講師／遠藤哲夫

海と山、水田の恵みとうまい酒…
新潟―大阪直通列車のゼミ。

イカの丸干し、米、おかき、鮭、へぎそば、かんずり、地酒…：関西人にはなじみが薄いけど、新潟は味覚の宝庫。背景には妙高山や糸魚川ジオパーク、佐渡南魚沼、長岡など自然の恵みがある。そして上杉謙信、直江兼続、河井継之助らが紡いだ歴史も魅力の一つです。

平成27年(2015)春に北陸新幹線(金沢―長野間)が開通し、上越・妙高など新潟県西部に大阪から3時間半で行けるようになります。この「新潟のええとこ・うまいもんゼミナール」は、かつては1日何便か大阪―新潟間を行き来し、1973年から連載が続いている水島新司の人気漫画「あぶさん」(主人公は新潟県出身で南海ホークスに入団)にも度々登場した「直通列車」に代わる新しい交流の場にしようという試みです。

第1回講師は「大衆食堂の詩人」と呼ばれるエンテツこと遠藤哲夫さん。「腹一杯めしを食って元気になる」ことを彼ほど生き生きと書ける人はちょっといません。エンテツさんのルーツ「新潟・南魚沼の米」の話をつぶりと。お腹が減って死にそうになっても「辛抱を！」



●今月の授業
新潟の米

炊きたて白ご飯にちよこっと梅味噌をのせるだけで「ごっつお」になるのが新潟の魔力だ!



えんどう・てつお
新潟県南魚沼郡六日町(現・南魚沼市)出身、さいたま市在住。法政大学を中退し旅行代理店に就職した際に「営業所をつくれ」と1年間大阪に勤務し、「大衆めし」の豊かさに目覚める。全国のめし屋に熱いエールを送る「大衆食堂の詩人」で、雑誌の取材でも度々来阪。著書に『大衆食堂パラダイス』(ちくま文庫)、『大衆めし 激動の戦後史』(ちくま新書)ほか。今年70歳とは思えぬパワーに圧倒されるべし。

続々登場!
大阪人が心震わす
新潟の魅力語りの
講師陣

- 第2回 11.27(水) 小林明子(ライター)
 - 第3回 12.18(水) 岩佐十良(『自遊人』編集長)
 - 第4回 1.29(水) 桂梅園治(落語家)
 - 第5回 2.26(水) 葉石かおり(利き酒師)
- ※会場は未定



●第1回～第4回の会場は梅田・富国生命ビル4Fの多目的スペース「アサヒ ラボ・ガーデン」。会社員のランチ会にも打ち合わせにもおひとりさま勉強スペースにも、買い物途中の憩いの場にも使われています。定期的に行われるセミナーも要チェック。7月のナカノシマ大学「国産ビール～大阪の夜明け」もここで開催。
☎06-6926-4070
11:00AM～8:00PM 日曜休
<http://www.asahigroup-holdings.com/research/labgarden/>

「炊きたて白飯の卵かけご飯こそ、新潟の至宝！」

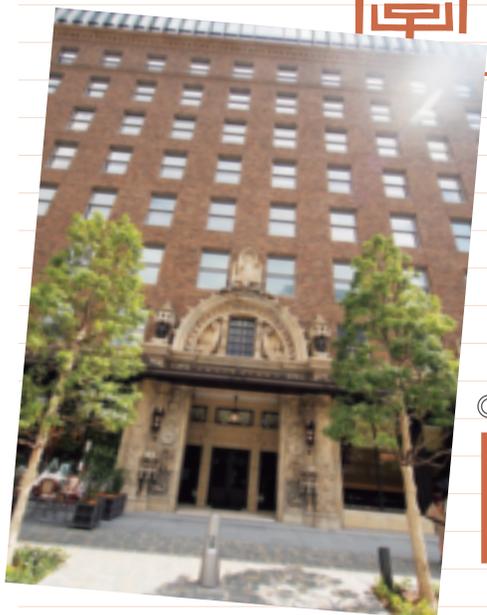
日時／2013年10月30日(水)
6:30PM～8:00PM(開場6:00PM)
会場／アサヒ ラボ・ガーデン(大阪富国生命ビル4F)
受講料／無料(新潟県のお土産付き) 定員／30名
主催／新潟のええとこ・うまいもんゼミナール事務局
後援／公益社団法人新潟県観光協会
協力／アサヒ ラボ・ガーデン、関西食ビジネス研究会

お名前・ご住所・電話番号を明記のうえ、下記までハガキ、ファックス、もしくはナカノシマ大学HP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添えください。〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階「関西にいがたゼミ」受付係 FAX.06-4799-1341 ※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。定員に達し次第締切。



ナカノシマ大学
NAKANOSHIMA UNIVERSITY

21世紀の
懐徳堂
プロジェクト



◎今月の授業

【ダイビル】

再オープンを
祝おう!

2013年11月講座
ダイビル株式会社×ナカノシマ大学

「ダイビル本館 建設秘話ツアー」

講師／勝山 太郎 (株式会社日建設計 設計部部長)
上田 貴幸 (ダイビル株式会社 建設・技術統括部課長)

歴史を継承するための建築秘話のレクチャーと、
現地見学会で新生ダイビル本館の魅力を感じよう。

大阪随一の名ビルとも言われる中之島のダイビル本館が、7月に再オープンを果たした。その様子は9月号でもたっぷり特集したが、やはり足を運んで、自分の目で見て生まれ変わったダイビルを体感してほしい。というわけで、再オープンしたダイビルをめぐるツアーを開催す

ることになった。
実際にビルの工事に携わった方から、旧ビルの歴史を継承するにあたっての苦労話や、新しく生まれ変わった部分など建築にまつわるお話をうかがう。それを踏まえて、1～2階のエントランスや「ダイビルサロン1923」などビルの中を歩

いて見学できる。
大正14年(1925)の竣工以来、大阪の人たちを魅了し続けてきたダイビル。島民諸君、中之島に名建築が帰ってきたことを、思う存分楽しんで祝おう!

募集要項	「ダイビル本館 建設秘話ツアー」	お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え下さい。
	日時／2013年11月13日(水) 7:00PM～8:30PM 会場／ダイビル本館 4階カフェテリア 定員／50名 受講料／1,500円 主催／ダイビル株式会社 ナカノシマ大学事務局	〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階 「ナカノシマ大学11月講座」受付係 FAX.06-4799-1341 ※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。 ※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。

ナカノシマ大学の最新情報は
<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは
こちら!→



お問い合わせ ☎ 06-4799-1340
(ナカノシマ大学事務局)

龍谷大学の公開講座「RECコミュニティカレッジ」

龍谷エクステンションセンター（「Ryukoku Extension Center」＝「REC」）は、龍谷大学が374年の歴史の中で培ってきた教育・研究成果を、地域社会に普及することを目的につくられた組織です。地域に開かれた大学を目指して1992年にスタートした市民向け生涯学習講座「RECコミュニティカレッジ」は、「仏教・こころ」「文化・歴史」「文学」といったコースに年間約440講座を配し、皆さまの知的欲求にお応えしています。龍谷ミュージアム提供講座もその一つ。日本初の仏教総合博物館「龍谷ミュージアム」での研究成果をもとに、仏教の世界をわかりやすく解説しています。
◎RECコミュニティカレッジは大阪梅田・京都・滋賀のキャンパスで開講しています。☎06-6344-0284 <http://rec-ryukoku.jp/>

「絵解き」仏教あんない～見て、聴いて、学ぶ仏教の世界～

◎第2回「来迎図を見る」

対談／入澤 崇（龍谷大学 龍谷ミュージアム館長）
釈 徹宗（相愛大学教授・浄土真宗本願寺派如来寺住職）



「キジル・マーヤー洞窟画」

古代インドでは「バタ」と呼ばれる布絵を使って絵解きが行われていた。中国新疆クチャ近郊にあるキジル石窟壁画には、絵解きの原点とも言うべきその様子が残されている。布絵には釈迦の生涯が描かれているという。

仏教を描いた絵画から読み取れるものを探る新シリーズ。第2回は、仏がこの世に現れる様子を描いた「来迎図」。

仏教絵画を解説することで、仏教を多くの人々に広める営みを「絵解き」と呼ぶ。その絵には描いた人々の思想や感情が込められており、そこからさまざまな意味や時代背景が導き出せる。

8月に続いてお送りする第2回目の講座では、「来迎図」をテーマに展開する。来迎図とは、死後に浄土へ向かいたいと願う人の臨終の際に、阿弥陀如来がこの世に迎えにやって来る様子を描いたもの。臨終におけるこうした考え方は、日本で平安時代中期より広く浸透し、来迎を願う強い思いは浄土教美術の源泉となってきた。つまり、日本人の死生観の特徴がよく表されている絵画と言っても良さそうだ。

一見、難しそうで退屈に見える仏教絵画も、ビジュアルによってわかりやすいように作られた「初心者向け」のもの。絵で見て学ぶ、ちょっと変わった仏教案内です！

Albert Grünwedel, Alt-Kutscha
archäologische und religionsgeschichtliche Forschungen an Tempera-Gemälden aus Buddhistischen Höhlen der ersten acht Jahrhunderte nach Christi Geburtより
「キジル・マーヤー洞窟画」の図

龍谷ミュージアムで開催中！
「極楽へのいざないー練り供養をめぐる美術ー」
さまざまな種類の来迎図のほか、来迎の様子を実演によって表現した「練り供養」の世界を明らかにする展示など、仏教総合博物館らしい特別展。
10月20日（日）まで開催中。 <http://museum.ryukoku.ac.jp/index.php>



募集要項	<p>「絵解き」仏教あんない</p> <p>日時／2013年11月26日（火）</p> <p>7:00PM～8:30PM頃（開場6:30PM～）</p> <p>会場／龍谷大学 大阪梅田キャンパス</p> <p>受講料／2,000円</p> <p>定員／80名</p> <p>主催／龍谷大学エクステンションセンター ナカノシマ大学事務局</p>	<p>お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え下さい。</p> <p>〒530-0004 大阪府北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階 「龍谷大学コラボ講座」受付係 FAX.06-4799-1341</p> <p>※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。 ※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。</p>
------	---	--

2013年10月1日発行

毎年のおなじみイベントとなった「Nakanoshima-style.com フォトコンテスト」。第8回目の今年のテーマは「いいね〜中之島」に決まった。たくさんの人たちが働いているだけでなく、水と緑に囲まれていることから、心を落ち着けさせてくれる人も多い中之島。

中之島の「いいね〜」を発見する フォトコンテスト

さまざまな表情を合わせ持っているこの街の中で、あなたが「いいね〜」と思う場面を写真に撮って応募してみよう。最優秀賞に選ばれた人には、先日オープンしたばかりのダイビル本館と中之島ダイビル共通で利用できるチケット1万円分という豪華な賞品も。1人につき5点まで応募できるため、思うぞんぶん中之島の風景を眺めて写真に撮ってみては。(大迫力・本誌)



2012年度優秀賞「光の中に」



2012年度最優秀賞「将来思い出になる場所」

第8回 Nakanoshima-style.com フォトコンテスト

応募規定 / デジタルカメラ、携帯電話などで撮影されたデジタルデータ(ファイル形式:JPEG、GIFなど) ファイルサイズ:2MBまでを1人5点まで応募可能。パソコン、携帯電話などからメール添付で下記の宛先まで送信(郵送での応募は不可)
応募方法 / 応募メール本文に、「作品名」「撮影場所(簡単に)」「名前(ニックネーム可)」「賞品の送り先(郵便番号、住所、氏名、電話番号)」を記入すること
送付先 / oubo@nakanoshima-style.com 期間 / 11月24日(日)まで
詳しくはhttp://www.nakanoshima-style.comまで



大阪や京都の歴史や文化をその分野のエキスパートと共に掘り下げていく京阪・文化フォーラムも33回目の開催。今回は大阪の水辺の歴史に注目する。
水都大阪と呼ばれ、川での新しい水遊びや観光に注目が集まる近年。その歴史は、大川沿いの大阪城を中心とした町をつくった豊臣秀吉の時代まで遡る。その後、大阪城が戦場となったドラマを、熟練の講師や大阪城をよく知る専門家が語る。さらに、今年は大

必見! 秋の中央公会堂 館内ガイドツアー

大正7年(1918)に竣工した中之島の文化のシンボル、大阪市中央公会堂。近年は重要文化財に指定され、近代建築の美しさを写真に収めたり、絵に描き起こす人を見かけるのが中之島の日常だ。残念ながら、普段は全室貸出のために館内見学はできないのだが、10月と11月の休館日に館内ガイドツアーが開催されるとの朗報が届いた。
開催は月に一度、各3回ずつ。今回は、公会堂の歴史よ



りも古い、100歳のピアノを特別展示すること。公会堂スタッフによるガイドも必聴で、「北浜の三傑」岩本栄之助に寄付されて竣工した経緯や、数々の歌劇や講演が行われた館内の美しい装飾技術など、その歴史や見所を紹介してもらえらる充実のツアーだ。(江口由夏・本誌)



大阪市中央公会堂 館内ガイドツアー

日時 / 10月22日(火)、11月26日(火)
①10:30AM~11:30AM②1:30PM~2:30PM③3:30PM~4:30PM
定員 / 各回約50名 参加費 / 無料
申込方法 / 往復ハガキの往信面に「ガイドツアー参加希望」と明記し、①名前(フリガナ)②郵便番号・住所③電話番号④参加希望日時(日時を選択の上、ひとつ記入)⑤参加人数(ハガキ1枚につき4名まで)、返信面:①申込者の住所②名前を記入の上、下記申込先まで郵送。
※応募者多数の場合は抽選、抽選結果は参加証もしくは落選通知の発送をもって通知
宛先 / 〒530-0005 大阪市北区中之島1-1-27 大阪市中央公会堂「ガイドツアーG」係
応募締切 / 10月分:10月4日(金)必着 11月分:11月8日(金)必着
問い合わせ / ☎06-6208-2002(9:30AM~9:30PM)

水辺の戦場の歴史を知る 京阪・文化フォーラムの講座

阪水上バス30周年ということも記念し、コラボレーションが実現。武将たちに思いを馳せるトークセッションでは、大阪水上バスの視点も加わり、今までもこれからの水辺観光についても理解が深まりそうです。(江口由夏・本誌)

第33回 京阪・文化フォーラム

「水辺の歴史—大川沿いにある大坂の陣戦場跡」

日時 / 10月25日(金)5:30PM~8:00PM頃

会場 / 追手門学院 大阪城スクエア

内容 /

●講演「大坂の陣 水辺の戦い」

北川央(大阪城天守閣研究主幹)

●講談「難波戦記—真田の砲撃」旭堂南鱗(講談師)

●トークセッション

北川央、旭堂南鱗、前本敏邦(大阪水上バス社長)

定員 / 300名 参加費 / 1,000円

申込方法 / 往復ハガキに「京阪・文化フォーラム参加希望」と記入の上、郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・年齢・電話番号・参加人数(ハガキ1枚につき2名まで)を明記し(返信用には返送先を記入)、下記申込先まで郵送。ホームページ「おけいはん.ねっと」http://www.okeihan.net/forum/からも応募できる。

※応募者多数の場合は抽選。抽選結果は入場引換証の発送をもって通知。

宛先 / 〒540-6591 マーチンチャイビル内郵便局 私書箱35号

京阪電車 文化フォーラム担当「京阪・文化フォーラム」係

応募締切 / 10月11日(金)当日消印有効

問い合わせ / 大阪水上バス ☎06-6942-0555

京阪電車 京阪・文化フォーラム係 ☎06-6944-2534

今年も 盛りだくさん 水都大阪フェス 2013

中之島公園をメイン会場に、大阪市内各地でさまざまなプログラムが開催される「水都大阪フェス」。規模も内容も年々充実を遂げている。今年、中之島公園に加えて、シマの西端からすぐの場所にも大きな会場が登場。2つの会場を核に、小さくさんのプログラムが用意されている。ここで紹介するのはそれらのうちのほんの一部。とにかく10月は大阪の水辺で遊ぶべし、なのである。会場やプログラムごとに日程・時間・料金などが異なるため、詳細はホームページなどで確認するのがおすすめ。また、ここで紹介したものの他にも、関連イベントや連携イベントが多数あるため、このあたりもぜひチェックを。 <http://www.osaka-info.jp/suio/jp/> (大迫力・本誌)

I. 中之島公園PICNIC RESORT

10/11(金)～14(月・祝)@中之島公園

「国際交流」「マーケット」「子ども」にまつわるプログラムが勢揃い。

あちこちでパフォーマンスや音楽が開催されているので、ふらりと足を運ぶだけでも楽しめる。



世界のバルムージアム

世界の「水の都」と呼ばれる都市を中心に10か国25種類の地ビールを提供。日時／10月11日(金)～14日(月・祝) 10:00AM～9:00PM



ピクニックマーケット

手作り蚤の市など多くの店にぎわう。日時／10月12日(土)～14日(月・祝) 10:00AM～6:00PM



子ども職業体験「こあきんど」

接客や販売など、子どもたちが実際の商売を体験できる。日時／10月12日(土)～14日(月・祝) 各日午前1回・午後2回



サンチャイルド展示

大阪出身のアーティスト、ヤノベケンジが、制作した《サンチャイルド》を展示。日時／10月11日(金)～14日(月・祝)

II. 中之島GATE FM OSAKA FOOD MAGIC

10/11(金)～27(日)@中之島西端・安治川沿い

大阪市中央卸売市場本場の対岸。魚の即売、オープンレストラン、ウォータースポーツ体験、アートなど、海に近いロケーションを活かしたコンテンツが盛りだくさん。



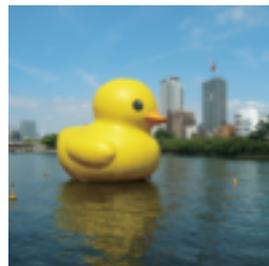
場外市場型レストラン「Market Resort」

中央卸売市場の食材を使ったレストラン。魚の販売も。日時／10月11日(金)～27日(日) 11:00AM～10:00PM (11日以外の平日は5:00 PM～)



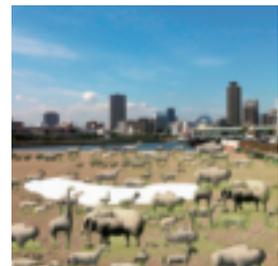
ウォータースポーツ体験

パドルボートや、Eボートなどが体験できる。日時／10月11日(金)～14日(月・祝)、19日(土)・20日(日)・26日(土) ※Eボートは19日のみ



ラバー・ダック展示

おなじみの人気パブリックアート「ラバー・ダック」が登場! 日時／10月11日(金)～18日(金)



おおさかカンヴァス

見慣れた風景が一変するパブリックアートが多数出現。日時／10月11日(金)～20日(日) (※作品により異なる)

III. and more!!



大阪水辺バル

天満橋、北浜・淀屋橋、東横堀、中之島GATE、道頓堀、大正の水辺の6エリアを船でめぐり、飲食メニューや水辺のプログラムなど約100ものメニューをハンゴできる。



中之島シャトルクルーズ

2つのメイン会場、中之島公園と中之島GATEをめぐるのに便利。10月11日(金)・13日(日)・14日(月・祝) 11:00AM～9:00PM (※最終便は8:00PM台)



コミュニティサイクル COIDECO

キタ&ミナミのターミナル駅周辺や中之島界隈及び本町・船場周辺に自転車を貸出・返却できるボートを9カ所開設(10月11日スタート)。

華やく街に誘われて⑥

フェスティバルプラザの「大阪らしさ」をめぐる

1 980年代、
京都に暮らす小学生だ

ったわたし。一番嬉しいお買い物先といえば、祖母と行く「小野紙文具店」だった。大正14年（1925）に創業したその店は、時代を追ってリニューアルを重ね、祖母はよく「ハイカラやろ」と口にしてた。次第に一人でも行くようになり、えんぴつ1本、消しゴム1個選ぶのに何時間もはりついていた。

カクカクしたりマルマルしたり、文具たちが織り成すいろんな形や色を、うっとり眺める特別な時間だった。思えばそれが写真を撮るといふ世界へ誘う入口だったのかもしれない。

高校生になったわたしは、大阪に練り出しはじめる。そんな、いつかのある日、梅田で「ステーションナリーのセレクトショップ」というハイカラすぎてひっくり返りそうなお店に出会う。「なんや？ ステーションナリーって」。

そこには事務用品や学校用品的な文房具は一つもなく、「ステーションナリー」



なくてはならない文房具との出会い。

文・写真/平野 愛 (カメラマン)

らしい洋風のデザインに溢れていた。忘れもしない、そこで初めて買ったのが「Rollbam」という名のリング式メモ帳。ターコイズブルーのぶ厚い表紙に、黒色のバンド、四角いリングの穴、ページには方眼罫。色彩と機能性とデザイン性が見事に同居している。

この世界観にすっかり魅了されたわたしは、その後、何度も何度も通うことになった。布張りに美しく「Photograph」とタイプされたフォトアルバムは写真を入れてプレゼント用にしたたり、「Inspiration comes of working」と書かれたブリーフケースやスケジュール帳は、10年以上リピートし続ける、なく



てはならないものになっていった。そして2013年、転機の春。「おしゃれな文房具屋さんでできたで」と夫に連れられて行った先は、中之島フェスティバルプラザの「デルフォニックス」というお店。わたしはここですべてを知ることになる。

店内に入るなり目に飛び込んできたのは見覚えのある色彩とデザイン。高校生のあの日の衝撃が、今ここで博物館のように陳列されていることに、またひっくり返りそうになった。そう、わたしが愛用していた品々は、ぜんぶ「デルフォニックス」の製品だったのだ。わたしを育ててくれた2つの店ほど、こちらもその歴史に幕を閉じていた。しかし驚いたことに、「小野紙文具店」の娘さんが、この春から同じ場所デザインアトリエを開店したらしい。今度会いに行ってみようと思った。中之島で買った「Rollbam」を手土産にして、

ひらのあ、カメラマン。自然光を活かした撮影と、手に取るフィルム写真にこだわる。2008年、仲間と共にスタジオ兼現像ラボ「写真とプリント社」を上落堀に設立。

祝祭へようこそ。



<http://festivalplaza.jp/>
提供/株式会社 朝日ビルディング



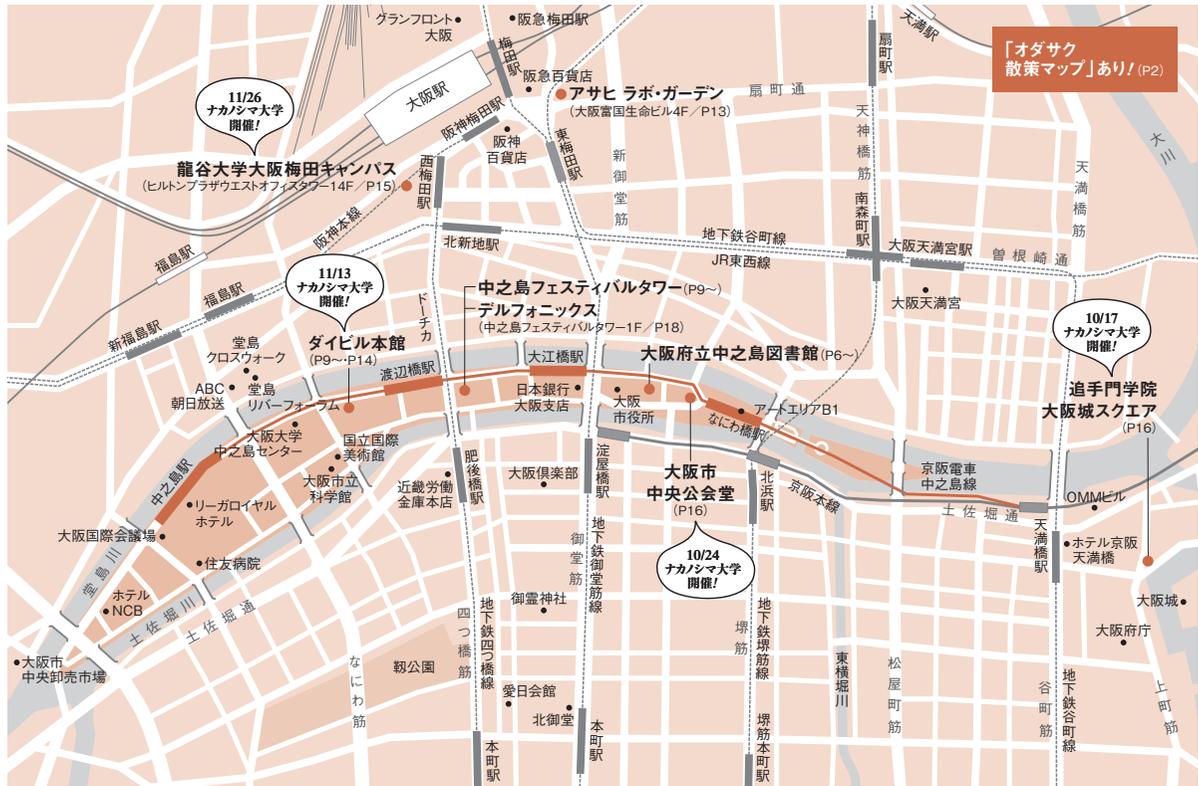
デルフォニックス大阪

●中之島フェスティバルタワー 1F

オリジナルのステーションナリーに加え、国産品やヨーロッパを中心にセレクトされた文具が並ぶ。時代の流れに左右されない機能性とデザイン性を高度に兼ね備えたアイテムが数多く揃い、贈りもの選びなどにも最適。万年筆など「書く」アイテムにもこだわる。また、店内にはギャラリーも併設しており、定期的に展示を開催している。
☎06-4708-3460 10:00AM~8:00PM 不定休

大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、
みんな「島民」です！



『月刊島民』はここでもらえます。

- 京阪電車関連 京阪電車主要駅/京阪シティモール/京阪モール/デリスタ天満橋店/ホテル京阪天満橋/ホテル京阪京橋
- 大阪市北区・中央区・福島区 [書店] 旭屋書店 梅田地下街店/カベラ書店/紀伊国屋書店 梅田本店/紀伊国屋書店 本町店/ジュンク堂書店 大阪本店/ジュンク堂書店 梅田ヒルトンプラザ店/ジュンク堂書店 天満橋店/MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店/スタンダードブックストア/天牛珈琲店 大津橋店/ブックファースト 梅田店/ブックファースト 淀屋橋店/文教堂書店 淀屋橋店/隆祥館書店
- [公共施設・大学関連施設など] アイスボット/朝日カルチャーセンター/味の素 食のライブラリー/ABC朝日放送/大阪企業家ミュージアム/大阪倶楽部/大阪工業技術専門学校/大阪国際会議場/大阪市中央公会堂/大阪市立中央図書館/大阪市役所市民情報プラザ/大阪城天守閣/大阪商工会議所/大阪大学中之島センター/大阪21世紀協会/大阪府立中之島図書館/大阪ボランティア協会/大阪歴史博物館/追手門学院 大阪城スクエア/川の駅はちけんや/関西学院大学 大阪梅田キャンパス/慶應大阪リバーサイドキャンパス/国立国際美術館/CITY NAIL'Sインターナショナルスクール/芝川ビル/市立住まい情報センター/中央電気倶楽部/ホテルNCB/メック扇町/立命館大阪オフィス/龍谷大学大阪梅田キャンパス
- [店舗・医院など] アリアスカ マーブルトレ/アンドール 本町本店/上町貸自転車/Ultra 2nd/江戸前鯉料理 志津可/天満橋鍼灸整骨院/MJB珈琲店/大西洋服店/OOO(オー)ノカセタ/喫茶カウンター/喫茶SAWA/グランドコート中之島/黒門さかえ/コモカフェ/サトウ花店 中之島本店/ザ・メロディ/じらう亭/Girond's JR/心斎橋山田兄弟歯科/住友病院/大阪証券取引所店/タビエスタイル/たまがわ鍼灸整骨院/東郷歯科医院/NAKAGAWA1948 淀屋橋店/ナンジャラ/パストラーレ/花か/ BAR THE TIME 天神/平岡珈琲店/ビルマニアカフェ/フレインハウス/ミニジロ/宮崎歯科/やきとりばかや/吉田理容所/ラックカーニャ/LES LESTON
- 大阪市内その他 [書店] 伊勢屋書店/大阪書店/紀伊国屋書店 京橋店/なんばみや/福島書店/柳々堂/ループル書店 [公共施設・大学関連施設など] 大阪市社会福祉研修・情報センター/大阪市立図書館/川口基督教会 [店舗・医院など] あじさい/アートアンドクラフト/欧風食堂 ミリパール/大阪市信用金庫 江戸堀支店/御舟かもめ/Calo Bookshop and cafe/写真とプリント社/鳥かごキッチン/ネールサロン スワンナ/バルビコ/ホステル64オオサカ/MANGUEIRA/Loop A
- 大阪府下 旭屋書店 京阪守口店/学運堂 フレスト店/Books 呼文堂/水嶋書房くずしは/水嶋書房くずしは駅店/大阪狭山市立図書館/大阪大学企画部広報・学運連携事務局/大阪大学 21世紀記憶徳堂/大阪大学本部/寝屋川市役所/摂南大学 地域連携センター/郵政考古学会/ゆったりんこ
- 大阪府以外 ジュンク堂書店 西宮店/水嶋書房 丹波橋店/伊丹市文化振興財団/大手通りストリートギャラリー 街・発信/納屋工房/タバーン・シンパソン/百練/奈良県立図書館情報館

◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円(手数料)でお譲りしています。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

次号予告 くすりの町の商い事情

一年を締めくくるといえば、中之島からほど近い道修町の神農祭。
その歴史は、江戸時代半ばから軒を連ねた薬問屋たちと共にあった。

●『月刊島民』vol.64は2013年11月1日発行です！

編集・発行人/江 弘毅(編集集団140B)
編集・発行/月刊島民プレス
若狭健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)
松本 創 大迫力(編集集団140B)
〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341
制作進行/堀西 賢(ALEGRESOL)
デザイン/山崎慎太郎
表紙イラスト/奈路道程
印刷/佐川印刷株式会社



こころまちつくろい
KEIHAN
京阪電車

今日はぜんぶ、
おまかせです。

中之島けい子
上賀茂神社



バス旅しましょ、 おけいはん

京阪電車にのった後は、京都定期観光バスでゆったり京の名所を満喫。

◆京のパワースポットコース〈洛北編〉



世界遺産の上賀茂神社での特別参拝をはじめ、巨木に囲まれた貴船神社や、天狗伝説のある鞍馬寺へ。清らかな聖地を訪ねて、あふれる“気”を授かりましょ。

■運行期間：10/1～11/29の平日（10/22・23は運休）
◎料金：大人8,000円

◆京のパワースポットめぐりコース

■運行期間：10/5～28の月・土・休日 ◎料金：大人8,900円

◆京の一日コース

■運行期間：毎日 ◎料金：大人6,460円

◆京都名庭めぐりコース

■運行期間：10/4～28の月・金・土・休日と11/1～12/8の毎日
◎料金：大人8,500円

◆トロッコ列車と保津川下りコース

■運行期間：10/1～12/8の毎日（10/2・9・16は運休）
◎料金：大人8,950円

京
阪
の
は
る
ん
。

詳しくは、京都定期観光バスホームページ、もしくは京阪電車主要駅でパンフレットをご覧ください。

他にも多彩なコースがざらり！

チャレンジおけいはん

検索

Facebook

@c.keihan